12 月13日（日曜日）「死んで・生きる」

【新改訳 2017】

ローマ　　6・1-11

「私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、いのちにあって新しい歩みをするためです。」（4節）

キリストを信じてバプテスマを受けることは、その人にとって、どんなに本質的で重要な変化をもたらしているかを明確に述べています。あえて要約して言えば、「死んで、生きる」ということです。

「信仰」「悔い改め」「回心」、そして「新生」など、いろいろな用語で表現されますが、それはキリストを信じることにおいて、古い自分は死に、新しいいのちの自分が生きる（キリストが内に生きておられることも共通する）ことです。まことに、生まれ変わりの救いです。なんと幸いな救いでしょう。

新しいいのちとは、天国でのことではなく、今のことです。

この幸いを深くわかるキリスト者でありますように。

～祈り～

主よ。あなたを救い主と信じ、バプテスマを受けた者は、あなたとともに古い自分に死に、あなたとともに新しいいのちに生かさせる者とされたことを感謝いたします。

【学びのために】

もし本物のクリスチャンという表現を用いるとすれば、この体験をした回心者であると言えるでしょう。ことばで表現しきれない幸いを覚えます。